

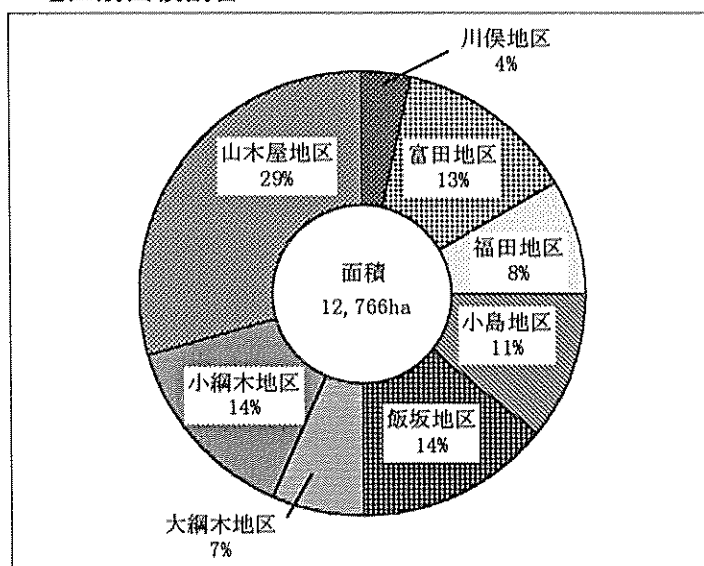
第2章 川俣町の現況と課題

1. 川俣町の現況

(1) 土地利用

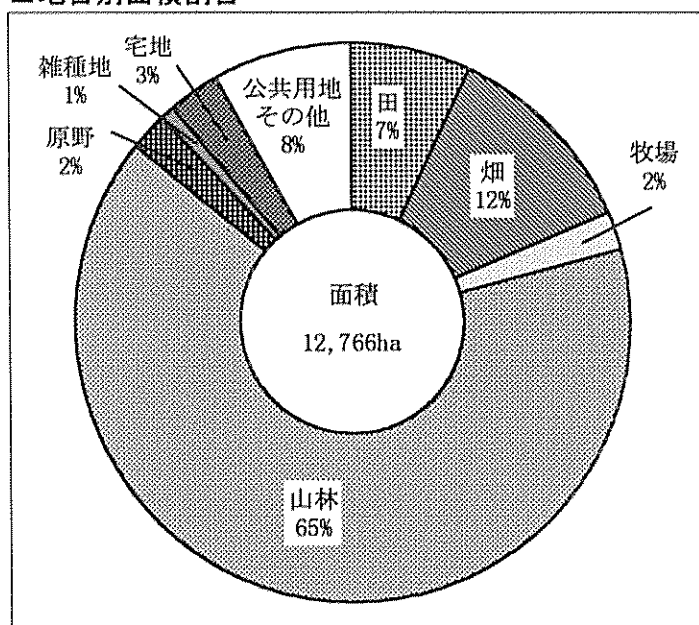
川俣町の地区別面積構成を見ると、中心部である川俣地区はわずか4%程度で、最も多くの割合を占める山木屋地区は約30%を占める面積となっています。地目別面積については、約3分の2が山林となっており、山々に囲まれた地域であることがわかります。また、宅地は少なく3%程度です。

■地区別面積割合



川俣町統計書 (H8)

■地目別面積割合



川俣町統計書 (H8)

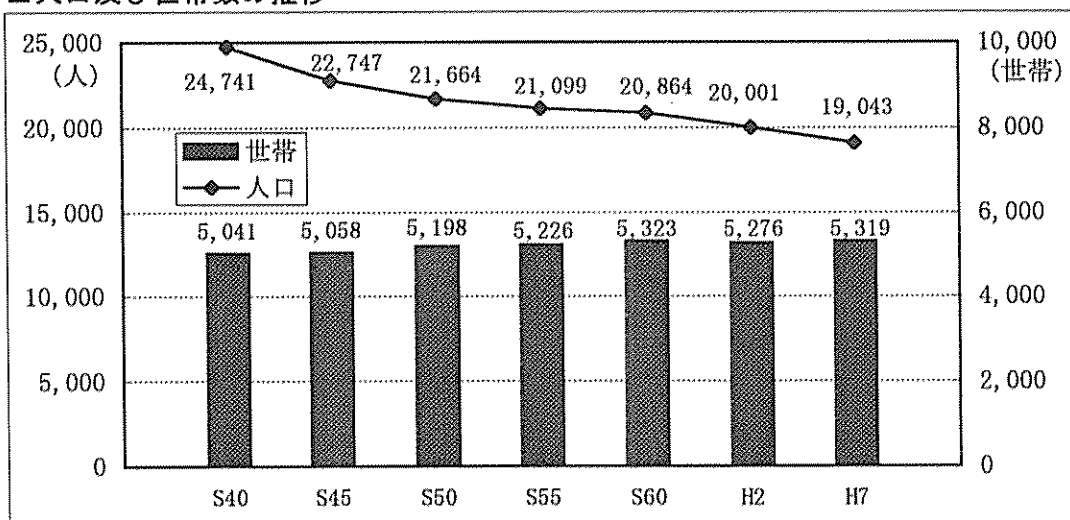
(2) 人口・世帯の動向

昭和40年に24,741人であった人口は、減少を続けており、平成7年の国勢調査では19,043人となっています。一方世帯数は昭和40年に5,041世帯でしたが平成7年の国勢調査では5,319世帯となっており、人口の減少傾向とは逆に増加していることがわかります。これは川俣町においても核家族化・少子化が進んでいることを示しています。

川俣町の高齢化は急速に進んでおり、昭和55年から平成7年の15年間で高齢化率が12%から22%へと倍増し、年少人口割合の17%を上回っており、高齢化社会が現実のものとなっています。

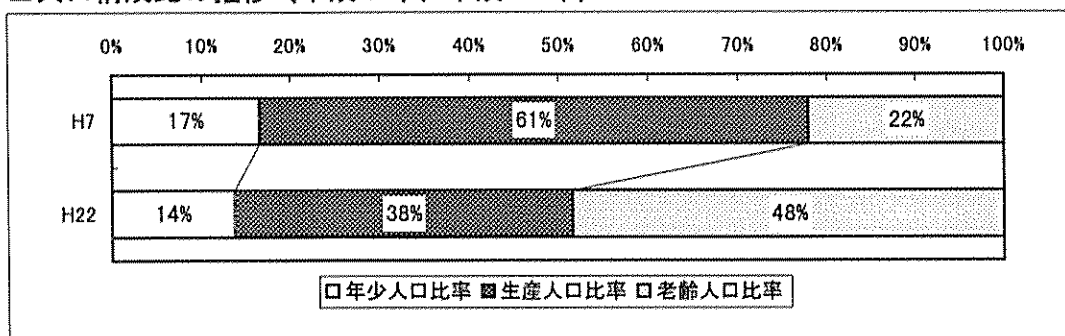
人口動態についてみると、社会動態・自然動態ともに減少していますが、特に社会減が大きくなっているのが特徴と言えます。

■人口及び世帯数の推移



川俣町統計書 (H8)

■人口構成比の推移 (平成7年、平成22年)



H7は川俣町資料「ポケット統計(H9)」

■人口動態

	社会動態			自然動態			(人) 計
	転入	転出	増減	出生	死亡	増減	
H3	504	623	△119	169	171	△2	△121
H4	490	705	△215	163	172	△9	△224
H5	465	629	△164	158	182	△24	△188
H6	537	667	△130	189	158	31	△99
H7	472	815	△343	163	175	△12	△355
H8	435	706	△271	167	165	2	△269
H9	469	722	△253	124	203	△79	△332

H7までは川俣町統計書(H8), H8は福島県現在人口調査年報(H8)

H9は福島県現在人口調査年報速報(H9)

■就業・通学地別流出入人口

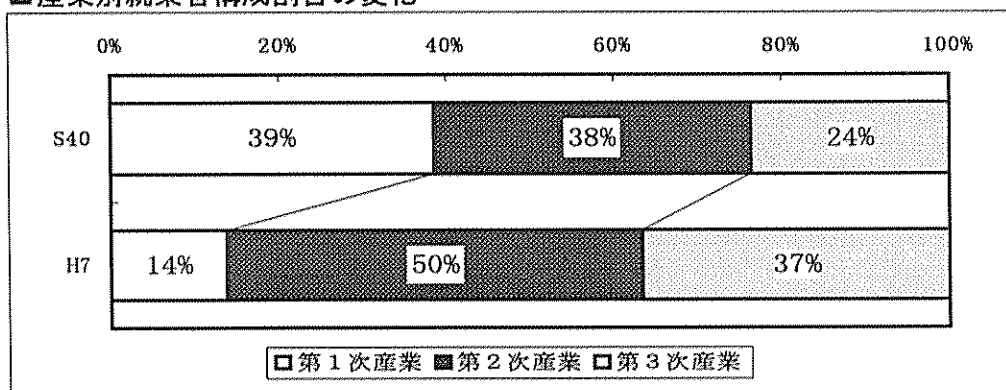
町外から川俣町へ(流入)			県・市町村別	川俣町から町外へ(流出)		
総数	就業者	通学者		総数	就業者	通学者
1,695	1,279	416	総数	2,561	2,144	417
1,678	1,262	416	県内他市町村	2,536	2,122	414
407	369	38	福島市	1,726	1,372	354
4	4		郡山市	36	36	12
6	5	1	原町市	20	20	
15	15		二本松市	45	45	22
7	7		桑折町	15	15	
5	4	1	伊達町	13	13	1
12	12		梁川町	11	11	
16	16		保原町	51	51	
45	36	9	霊山町	45	44	1
246	150	96	月舘町	70	70	
370	301	69	飯野町	232	232	
18	18		安達町	31	31	
2	2		本宮町	11	11	
36	35	1	岩代町	16	16	
169	92	77	東和町	53	53	
0			大熊町	10	10	
38	28	10	浪江町	23	10	13
260	146	114	飯館村	54	47	7
22	22		その他の市町村	39	35	4
17	17	0	他県	25	22	3
			宮城県	11	9	2
			山形県	4	4	
			栃木県	3	3	
17	17		その他の都道府県	7	6	1

川俣町統計書(H8)

(3) 産業構造

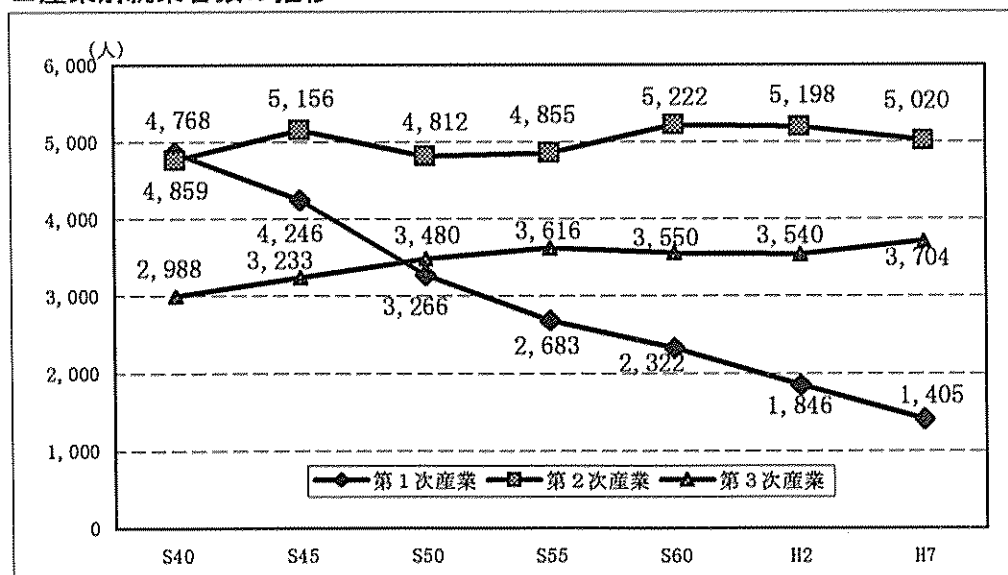
川俣町の産業の状況を産業別就業者数から見ると、昭和40年は第1次産業と第2次産業の就業者構成比がともに38%程度であり、第1次産業と第2次産業が川俣町の中心産業であったことがわかります。しかしその後、第1次産業就業者数の減少が著しく、平成7年には第1次産業就業者数が全体の14%程度、1,500人を割る程にまで減少しています。第2次産業、第3次産業の就業者は若干ですが増加していますが、第1次産業の減少が大きいため、就業者総数としては、減少傾向にあります。このことから、川俣町の産業構造は、第1次産業と第2次産業が中心の産業構造から、第2次産業、第3次産業を中心とした産業構造へと移行していることがわかります。

■産業別就業者構成割合の変化



川俣町統計書(H8), 川俣町資料「ポケット統計(H9)」

■産業別就業者数の推移



川俣町統計書(H8), 川俣町資料「ポケット統計(H9)」

(4) 道路整備と都市計画事業の状況

川俣町の道路舗装率は、国道及び県道では90%以上に達していますが、町道は55%程度の低い舗装率となっています。

市街地を抜ける国道のうち、国道114号のバイパスは平成7年に完成し、現在国道349号バイパスの工事が進められていますが、全体の計画の中では一部にすぎず、今後の整備の進展が期待されています。

中心市街地の道路はいずれも幅員が狭い上に歩道の整備が十分ではなく、子供や高齢者が安全に歩行できる環境とはいえない状況です。

都市計画事業としては、中央公園が都市公園として整備されており、都市計画道路や下水道の整備が計画されています。

■道路整備状況

区分	路線数	実延長 (m)	改良済延長 (m)	改良率	舗装道 (m)	舗装率	橋梁数		橋梁延長(m)	
							木橋	永久橋	木橋	永久橋
総数	492	338,585	162,644	48.0%	212,602	62.8%	18	177	101	1,794
国道	3	39,189	34,197	87.3%	37,878	96.7%	0	28	0	292
主要地方道	4	14,705	11,479	78.1%	12,532	85.2%	0	10	0	61
県道	2	7,611	2,385	31.3%	7,611	100.0%	0	5	0	46
町道	483	277,080	114,583	41.4%	154,581	55.8%	18	134	101	1,395
1級	10	33,259	25,934	78.0%	28,607	86.0%	0	12	0	120
2級	15	36,673	16,565	45.2%	26,329	71.8%	0	10	0	99
その他	458	207,148	72,084	34.8%	99,645	48.1%	18	112	101	1,176

(国道・県道はH8,町道はH7)

■主要道路概要

国道	町内延長	町道(一級)	町内延長	町道(二級)	町内延長
1 114号	24,092m	1 五百田中道線	795.9m	1 桜新道線	661.1m
2 349号	12,692m	2 大清水線	977.6m	2 飯野線	89.3m
3 459号	2,405m	3 西方飯野線	2,434.2m	3 杉坂線	1,184.5m
主要地方道	町内延長	4 横大道鉾田線	3,569.9m	4 雁ヶ作線	1,068.4m
1 原町川俣線	5,523m	5 小神秋山線	4,398.0m	5 井戸上線	1,032.1m
2 川俣安達線	641m	6 遠西田代線	11,168.5m	6 芦沼田線	1,357.6m
3 松川蠶山線	3,842m	7 頭陀寺線	1,173.7m	7 小手秋山線	1,997.7m
4 原町二本松線	4,699m	8 杉坂大木田線	5,357.4m	8 坂田ノ入線	1,140.9m
一般県道	町内延長	9 菅ノ又線	1,336.5m	9 峠線	3,945.2m
1 二本松川俣線	4,969m	10 山木屋田代線	2,376.7m	10 花塚後沢線	5,968.5m
2 月館川俣線	2,642m			11 谷沢追戸線	3,493.4m
				12 大柴線	3,145.0m
				13 長滝若松線	5,462.2m
				14 八木線	4,303.5m
				15 地切線	1,963.0m

川俣町管内国県道整備状況調書(H8)及び川俣町統計書(H8)

■都市計画事業整備状況

都市計画道路	計画延長	改良済延長	整備率	都市計画公園	計画面積	供用面積	整備率
川俣壁沢線	1,820m		0.0%	地区公園			100.0%
中丁鉄炮町線	550m		0.0%				
五百田中道線	1,850m		0.0%				
中道川原田線	1,590m	980m	61.6%				
五百田新中町線	1,060m		0.0%				
長戸川原田線	2,370m		0.0%				
				下水道	計画延長	供用延長	整備率
				川俣都市下水道	1,490m	270m	18.1%

都市計画年報(H8)

2. 川俣町の特性と課題

◆社会・産業

川俣町には、町の歴史を築いた繊維産業をはじめとした地場産業が存在していますが、現在、衰退の一途をたどっており、深刻な状態となっています。

商業面でも、中心商店街の衰退が進んでおり、空き店舗が目立ってきている状況で、町の活性化のためにも重要な課題となっています。

また、人口も減少を続けており、人口の流出を防ぐための方策づくりが必要となっています。

◆土地利用

川俣町は山がちな地形であるため、住宅地の適地が少なく、住宅地の価格が高い状況にあります。このため、環境、価格面において良好な住宅地の供給を進めていくことが必要です。

一方、市街地周辺部では、管理が行き届かない土地が出てきており、開発に対する自然環境保全の考え方とあわせて検討していく必要があります。

また、市街地及び周辺部について、遊休地の積極的な活用についての検討が求められています。

◆都市施設・都市環境

川俣町を縦横に流れる河川について、単に街中に水の流れがあるだけでなく、水辺環境として都市空間に積極的に取り込むよう整備していくことが必要です。道路に歩道がないか、または歩道があっても狭いことが、交通安全上の問題となっており、歩道の整備を進めていくことが必要です。

現在ふれあい福祉ゾーンとして、医療・福祉・保健機能を集積させる計画が進んでおり、川俣町の特徴づくりのためにも計画の推進が求められています。

◆歴史・自然環境

川俣町には、春日神社、常泉寺、河股城跡等の歴史的資源が多く存在します。これらの歴史的個性を消すことなく保全し、積極的にアピールしていくことが望まれています。

川俣町の周りを囲む山林及びそこから流れてくる河川といった自然環境は人々の心を豊かにし、町の個性を形づくる大切な要素として、計画的に保全していくことが必要です。山林・水源の保全など自然環境の保護のみならず、生活排水の浄化などにより、街中にも豊かな自然を引き込むための整備が求められています。